

地震や台風などの災害時には、まず迅速な状況把握が求められます。災害の状況は、現地において撮影された写真や映像で確認されますが、災害の規模によっては直接現地に赴くことが困難な場合が多いため、災害時に機動力のある航空機によって上空から撮影された航空写真や映像が利用されています。本システムは、災害時において撮影した写真の画像を利用し、弊社独自の手法で解析して3次元（3D）データを作成することで、被災直後の崩壊・土砂災害などの状況把握とその分析をおこなうための情報を早急に提供することが可能となります。写真は、上空からの垂直写真、斜め上空からの俯瞰写真、地上から撮影した写真など、撮影ポイントが自在に組み合わせ可能です。

使用可能な写真画像

- ・通常の航空測量写真画像
- ・斜め航空写真画像（計測仕様）
- ・地上撮影写真画像（計測仕様）



斜め航空写真画像
(計測仕様)

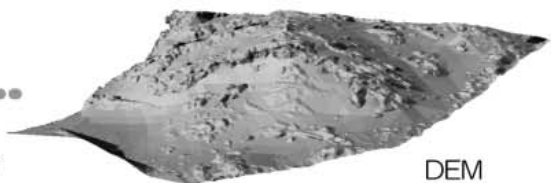


3次元画像解析処理

写真画像を独自の手法で解析し、画像計測したDEMデータを作成します。地上の情報がない状況でも作成できるため、災害時に航空写真を入手した段階で処理が開始され、迅速に被災地の概略を把握することができます。位置計測精度は、標定精度に依存します。後に基準点情報を付加してより正確な測量精度に高めることが可能となります。



テクスチャマッピング



DEM



作成したDEMデータにテクスチャ（航空写真の可視情報）を合成して、テクスチャマッピング画像を作成します。

この画像は、方向、角度を設定して表示することが可能となります。

3Dビューアにより、さまざまな方向・角度から対象物を捉えることができるため、災害地の全貌はもとより、被災の重要なポイントなどの詳細なモニタリングが可能となります。

